

2016年1月号

1月15日(金)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

月刊 温根内通信 No. 232



明けましておめでとうございます。

本年もよろしくお願いいたします。

年末より本格的に冷えてきました。毎日のように最低気温がマイナス15度を下回り、いよいよ厳冬期といった感じです。今のところ雪は少なく、典型的な北海道東部太平洋側の気候です。キーンと張り詰めた寒さの中では、生き物たちが必死で厳しい冬を越そうとする姿が見られます。

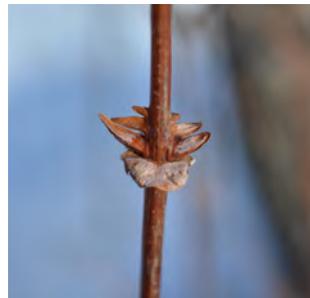
☆☆☆温根内ビジターセンター 探勝木道周辺の自然情報☆☆☆



～温根内探勝木道周辺の自然～



【ホロムイツツジ】
 ツツジ科 幌向躑躅
 ミズゴケ湿原ではよく見るとホロムイツツジが花を咲かせる準備をしています。開花は5月上旬。(絶滅危惧ⅠB類 ヤチツツジ)



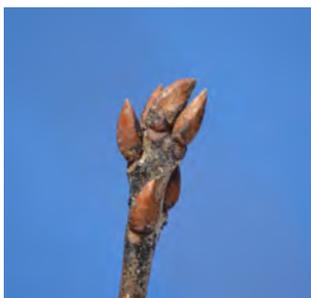
【クロミノウグイスカグラ】
 スイカズラ科 黒実鶯神楽
 ミズゴケ湿原やその手前のハンノキ林で見られます。別名ハスカップで知られますが、冬芽が縦に並び珍しい姿をしています。



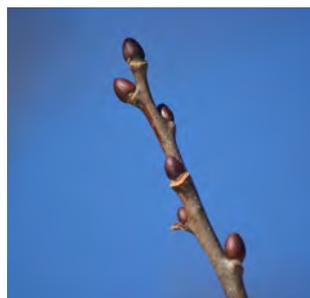
【ヤチダモ】 モクセイ科
 谷地櫛
 湿原周辺で見られます。大きめの芽鱗(がりん)をかぶった冬芽は春になると芽吹いて花や葉・枝に生長します。葉を落とした痕が顔に見えます。



【ハンノキ】 カバノキ科 榛
 湿原内で生長できるハンノキの枝先に小さなイモムシの様な雄花の花芽がついています。その付け根付近にはさらに小さな雌花の花芽がついています。花期は3月



【ミスナラ】 ブナ科 水楢
 ドングリが実るミスナラの冬芽は多数の芽鱗をまとめて冬をしのぎます。たくさん皮を被っているからなのか、葉の出る時期は他の樹木に比べて遅いです。



【バッコヤナギ】 ヤナギ科 跋扈柳
 鶴居軌道跡に沿ったところに見られます。日当たりの良いところでは芽鱗が落ちてふわふわのネコヤナギ状態になっています。花期は4月

○表紙の写真 上:早朝の湿原 中:ミズゴケ湿原のエゾシカ 下:フロストフラワー(霜の花)

～温根内探勝木道周辺の野鳥～

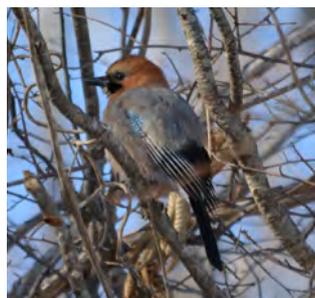
12月から雪の少ない日が続き、雪で食べ物が見えにくく分散しているのか、冬鳥がほとんど見られません。留鳥はいつも通りに見られ、カラ類が混群を作り、にぎやかにビジターセンターの周りの森を飛び回っています。ビジターセンターでは無料で双眼鏡を貸し出ししています。暖かい格好で冬の野鳥観察をお楽しみください。



【ハシブトガラ】 留鳥
シジュウカラ科 嘴太雀
他のカラ類と混群を作りVC周辺を移動しています。かなり近くに寄ってくることもあるので、じっくりと観察できる人気の野鳥です。



【セグロセキレイ】夏鳥（一部越冬）セキレイ科
温根内には冬にやってきて、凍らない湧水のある鶴居軌道で見られます。毎年1羽ですが、今年は2羽の姿が見られます。



【カケス】 留鳥（漂鳥）
カラス科 樺鳥 懸巢
今シーズン温根内周辺では当たり年のようです。初列雨覆の美しい模様もじっくりと観察することができます。北海道は亜種ミヤマカケス



【モズ】 夏鳥（一部越冬）
モズ科 百舌鳥
北海道では一般的に夏鳥ですが、秋口からハンノキ林内で1羽のメスが見られます。このまま越冬してしまうのでしょうか。

○温根内探勝木道周辺で観察された鳥（12月15日～1月14日）※和名は日本鳥類目録第7版の順

■オオハクチョウ■タンチョウ■トビ■オジロワシ■オオワシ■ノスリ■ケアシノスリ■ヤマセミ■コゲラ■アカゲラ■オオアカゲラ■モズ■カケス■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ハシブトガラ■シジュウカラ■ヒヨドリ■エナガ■ゴジュウカラ■キバシリ■ツグミ■セグロセキレイ

☆☆☆コラム 「温根内周辺の外来種 ③」 ☆☆☆

温根内ビジターセンター 指導員 本藤泰朗

植物、ほ乳類以外では、特定外来生物のウチダザリガニの存在が注目されます。北米原産のウチダザリガニは1930年に食用やニジマスの餌として釧路湿原の北に位置する摩周湖へ放流されたのが初めてです。摩周湖には流出する河川が無いことから、その後は人の手により摩周湖の外へ放流され、釧路川水系から、阿寒、広く北海道へと広まってきました。ウチダザリガニは在来の二ホンザリガニ



ウチダザリガニ
(特定外来生物)

（絶滅危惧Ⅱ類）と比べて体が大きく、早く生長し、卵も多く生むことから、二ホンザリガニを駆逐してしまう可能性があるほか、水草や水生昆虫、小魚

や両生類など水底で暮らす動物や植物のほとんどが餌になるため、生態系に対して非常に悪い影響を及ぼします。釧路湿原の河川や沼では至る所で普通に見られ、がっつりと定着しています。このようなひどい状況の中、奇跡的

に温根内周辺にはまだ侵入できていません。というのも、温根内ビジターセンターの300mほど北側には新釧路川の大きな堤防があり、これを境に



湿原内に伸びる新釧路川右岸堤防

南側の温根内には侵入できないでいるのです。この大きな堤防は洪水を防ぐ目的で1921年から工事が始まりました。湿原の真ん中に作られた巨大な人工物が結果的に温根内の生態系をウチダザリガニから守っているというのは皮肉な



二ホンザリガニ
(絶滅危惧Ⅱ類)

話ですが、この堤防を越えて温根内側に広まると、二ホンザリガニをはじめ、様々な植物や水生昆虫が脅威にさらされるという非常に危うい状況なのです。



普及啓発イベントの様子

このため、ビジターセンターでは堤防の北側を流れる温根内川を中心に一般向けの防除活動と普及啓発のイベントを行っています。また、釧路湿原国立公園パークボランティアの活動では2003年より大掛かりな防除活動を行っています。このほか、行政だけでなく民間団体も防除活動を行うなど、これ以上生息域が広まらないよう、様々な団体が活動を続けていますが、一度釧路湿原の生態系に入り込んだウチダザリガニを根絶することは非常に困難で、これから先も粘り強く防除活動を続けていかなければなりません。

本来の生態系は長い長い期間を経て出来上がり、微妙なバランスのもと



パークボランティアによる防除活動の様子 (写真提供:環境省)

で成り立っています。その中に外来種が入ってくることでバランスが崩れ、生態系全体に影響を及ぼす危険性があります。

特に北海道は最後の氷河期に本州とは海で隔てられてい



農にかかったウチダザリガニ (写真提供:環境省)

ため、生物相が大きく異なり、同じ種でも形態が違うものがあるなど、同じ日本でも本州の生態系とは分けて考えなければなりません。そのため、国外だけでなく、国内からの外来種に対しても注意を払わなければならないのです。

そもそもの話ですが、外来種に罪があるわけではありません。彼らも見知らぬところに人間の手によって連れてこられ、精一杯生きていただけなのです。農にかかったアメリカミンクを処分しなければならない時はとても心が痛みました。しかし本来の北海道の生態系、本来の釧路湿原の生態系を守ることを考えると、そうも言っていられません。既に入り込んだ外来種を根絶することはとても難しいことです。これ以上上げないことや、新たな外来種を侵入させないこと、現状と危険性をより多くの人に知ってもらう事が大切なのです。 [おわり]



本来の釧路湿原の美しい姿をいつまでも見ていたいものです...

☆☆☆☆イベントのご案内 (2月) 事前の申し込みが必要です☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込み☎0154-65-2323

♪歩くスキーで湿原ハイク

〔日時〕2月7日(日) 10:00~12:00 〔定員〕15名(小学生は保護者同伴)

〔参加費〕無料(スキーもレンタル無料です) 〔場所〕温根内ビジターセンター

歩くスキーを使って雪に覆われた冬の湿原を歩きます。冬ならではの湿原を楽しみましょう。

○塘路湖エコミュージアムセンター(あるこっと) ⇒お申し込み☎015-487-3003

♪冬の塘路湖畔散策

〔日時〕2月13日(土) 10:00~12:00 〔定員〕10名(小学生は保護者同伴)

〔参加費〕無料 〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

~職員募集のお知らせ~

温根内ビジターセンターでは今年の4月1日から働ける指導員1名(正職員)を募集しています。釧路湿原国立公園で花や鳥に囲まれて働いてみませんか?詳しい募集内容はフェイスブックページをご覧ください。メールにてお問い合わせください。応募の締め切りは2月7日(当日消印有効)です。担当:本藤(ほんどう)

月刊 温根内通信 No.232

発行:釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-0036 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel:0154-65-2323 Fax:0154-65-2185

E-mail:ovc@hokkai.or.jp

ホームページ:http://city.hokkai.or.jp/~kkr946/

Facebook:https://www.facebook.com/Onnenai.VC

開館時間:10:00~16:00(4月~10月は17:00まで)

休館日:毎週火曜日(12/29~1/3は休館) 入館無料